

中小企業もSDGsに取り組む時代に SDGsを活用して 社会貢献の機運を高める



おとり株式会社
取締役社長
岡本 弘氏

責任あるサプライヤーとして

国連との出会いは、2010年にフランスに本社がある取引先から、今後持続可能な取組みをしている企業との取引を重点に考えているとお話を頂き、国連グローバル・コンパクトに加盟することを取引の条件とされたことがきっかけでした。企業理念や「商行為を通じて社会公共の福祉に貢献する」等の経営方針は、前社長の代に決められたものですが、グローバル・コンパクトの10原則とも親和性が高く、加盟にあたって新たに何も変える必要はありませんでした。ただ、これをきっかけに、社内の持続可能性を目指す機運が高まり、ISO14001やISO9001等も取得していたこともあり、2011年2月に国連グローバル・コンパクトに参加、また2012年にはグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの関西分科会にも参加するようになりました。私自身が、企業は金儲けだけではだめだ、自然環境の保全や社会貢献はこれからますます大切になってくるし、対策を取らねば企業として生き残っていけないと感じ始めていた矢先の出来事であり、取組みも急速に進みました。

経営方針 - Management Policy -

- 一. 商行為を通じて社会公共の福祉に貢献する
- 一. 堅実経営を基本に一歩一歩前進し健全な発展を期す
- 一. 誠実、努力、明朗にて信用の蓄積を計る

おとりの経営方針

社内浸透は、時間をかけて丁寧に。 グローバル・コンパクトの10原則からSDGsへ

中小企業は、国際的な動き、ましてや国連での取組みとは距離があります。実際、グローバル・コンパクトの10原則の社内浸透には2～3年かかりました。現在も引

き続き継続中です。私の指示としては、現場に行って直接社員の顔を見て説明しなさいというものでした。テレビ会議でも可能ではありませんでしたが、わざわざ国内25拠点までCSR担当課長が出向いて、国連グローバル・コンパクトに加盟したことや10原則等について説明をして周りました。社員がお客様に聞かれたときに、「分かりません」ではなく、きちんと答えられるようにしたいという気持ちがありました。またそのような崇高な目標を持つ国連グローバル・コンパクトに加盟している企業に身を置いていることに誇りを持ち、理解してもらいたかったのです。試験勉強のように知識として暗記してもらうのではなく、意識を持ってもらうことを重視しました。SDGsについても同様に、SDGsとはなんぞやということを2年半かけて全ての部署で説明をしてきました。社員が働き甲斐、やりがいを持って働ける職場でなければならないと考えていますが、SDGsは、社員にとっても分かりやすく、モチベーションを上げる有用なツールと思って活用しています。

中小企業はトップの納得が鍵

SDGs的なターゲットは特に設定をしていませんが、従来、継続してやってきたやるべきことをきちんとすれば、SDGsの達成につながるという自負があります。ただSDGsをきっかけとして、電子部品の商社としてどう貢献できるか、CSVとして何が出来るかは現在検討しています。SDGsについて感じたことは、トップが納得しないと、「社会にとって良いことをします、SDGsを実施します」と言っても進まないということです。トップが納得するにはSDGsに関する最新情報の収集とそのインプットを継続的に実施することが不可欠です。その過程においては、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンやIGES等も含めた社外からの情報収集にも努め、自社にマッチしそうな良いものがあれば、検討の上、自社の方針・活動等にも着実に取り入れていく。そうした覚悟で、引き続き、取り組んでいきたいと思っています